

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (たんぽぽ)		
所在地	岐阜県各務原市鶴沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和 6 年 8 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和 7 年 3 月 11 日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoosoCd=2170500629-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoosoCd=2170500629-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和6年9月25日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:8,9)	1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない			

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他の入居者様や職員とのコミュニケーションを図りやすく、アットホームな空間で過ごして頂けるように努めています。現在はコロナの影響がまだ外出することが思うようになりませんが、今年5月に全員で「いちご狩り」に出かけました。職員が出かける時一緒に気分転換を図る方もいます。毎日の健康チェックはもちろんの事、体調変化には注意し 医師・看護師とも連携を取り対応に当たっています。利用者様の身体機能向上やコミュニケーションの促進などを目的としてレクリエーションや体操に力を入れています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは和のしつらえのある造りであり、木のぬくもりを感じさせる落ち着いた雰囲気の施設である。また、中庭を介した採光に優れ、明るく広い空間となっている。中庭には木々や菜園があり、日々の暮らしの中で四季の自然を感じ取ることができる。ホームでは、法人理念を基に毎年、目標を設定しており、今年度は「チームケア、利用者様、家族様、職員の声を聞く」という目標を掲げ、感染症対策をしながらも、利用者と家族との接点を増やし、面会や外出等ができる環境づくりに取り組んでいる。さらに、利用者には地域とつながりながら生活していると感じてもらえるように、日常的な散歩だけでなく、喫茶店への外出、買い物等の外出支援にも力を入れている。ホームの特徴として、クリニックを母体とし、複合的施設展開を行っている医療法人・社会福祉法人グループの一員であり、多職種連携による医療・介護が一体的に提供されることで、利用者の身体機能維持や疾病予防・悪化防止につながっている。また、職員の質の向上に取り組み、法人合同で新人研修、中途職員研修やセクションマネジャーを対象にした研修等、階層的な研修を実施しており、キャリアパスの仕組みができている。

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes We Can」の他に、ひだまり独自の「Team Care～入居者様、ご家族様の言葉はもちろん共に働く職員の声にも耳を傾けます～」という理念をあげて、周知徹底し、ケアに繋げている。	法人理念を基に、毎年、ホームの目標を掲げ、会議で振り返り、アウトカム評価する仕組みがある。また、理念を毎月のカンファレンス等で復唱し、職員間で共有している。利用者の声に耳を傾け、寄り添うケアに努める等、日常的なケア実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、町内清掃はエリアマネージャーが参加している。	日常的な散策で近隣の方々と挨拶を交わしたり、自治会に加入し、地域の清掃活動に参加する等、ホームの行事を通じて地域の方々と交流したりしている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度6月に対面方式での運営推進会議が行われた。入居者の様子は施設内を案内し見学して頂くことでご意見を頂くことができた。	コロナ禍においては、運営推進会議は書面開催であったが、今年度は対面での会議を再開し、その際にホームの見学も行った。会議は法人内の事業所合同で開催され、市担当者や地域包括支援センター担当者、地域の役員、家族等、多様な関係者の参加を得て、意見交換を通じた交流がでできている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点に関しては、その都度市に連絡して確認している。認定調査員として来所された時に入居者様の様子を伝え、アドバイスをいただいている。	市担当者とは、ホームや、あるいは本部を介して、連絡を取り合い、相談して助言を得たり、運営状況や空き状況等を報告する等のやり取りを通じて、協力関係を構築している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が穏やかに過ごして頂けるよう情報共有・理解し実践しているが、危険因子を含む場合はこの限りではない。	例えば、転倒や転落による外傷の危険性があり、緊急性がある場合等必要な場合は、医師や家族、職員間で話し合い、実施する場合があるが、職員は研修受講により、身体拘束のもたらす弊害について学びを深めたり、様々な事例を検討する等して、意識を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	資料で学び、職場カンファレンスで話し合い、情報共有し、防止に努めている。	今年度は、法人として「接遇」について取り組みを行っている。法人内で虐待防止に関する研修を実施して、普段行っているどんな行為が虐待にあたるのか等の理解を深めたとの事である。また、研修で学んだことを職員間で共有し、虐待防止の徹底に取り組んでいる。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、理解に努め、入居者様が当事者様となられた時は、情報共有し、支援を行っている。		
8	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明し安心して入居していただくようにご家族様の疑問や質問に答えている。		
9 (7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族会が開かれていない。面会時には、出来る限りご家族様から意見や要望等を聞き、運営に反映させている。	意見箱を設置するとともに、来訪時や電話での現状報告する際に聞き取る機会がある。また、利用者の意見については、日々のケアの中でのコミュニケーションを通じて意見をくみ上げるよう努めている。いただいた意見や要望等はホームの運営に反映させている。	
10 (8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談提供をしあえる場所となっている。会議で得た情報や決定事項は各事業所に、申し送られ共有出来ている。	管理者も現場に入っているので、職員からケア方法の提案や職員同士の人間関係等、日常的に相談を受けることもあり、事業所内の会議に議題を出して、検討している。解決が難しい場合には、上司や法人運営会議で報告したり、相談したりしている。	
11 (9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	、新人研修、中途入職者研修、クレド等で自己啓発を勧めている。法人以外の研修はコロナの影響で出来ていないが、ZOOM利用等手段を変えての参加を勧めている。	ぎふ・いきいき介護事業者制度でグレード1を取得しており、職員の有給取得体制の整備に取り組むとともに、家庭の事情等を加味して、職員の希望に沿った勤務体制を組む等、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12 (10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や法人外での研修に参加している。またOJTを活用しながら日々の業務で教育を行っている。	法人内で、新人研修(中途入職研修)や毎月の管理者研修等を実施している。また、WEB外部研修の受講等、いつでも学べる仕組みがある。さらに、OJT指導や目標管理制度を活用し、職員のスキルアップを図っている。また、働きながら資格を取得できるよう支援している。	

自己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響で交流する機会がなく、活動出来ていない。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の行動・言動に注意し、理解を深めると共に、残存機能維持出来るようケアを行う。			
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との談話等で 本人様を理解し、意向の把握に努める。	利用者の思いを尊重する観点から、例えば、午後のコーヒータイムの時間帯を活用し、ゆっくり会話しながら、思いや意向の把握に努めている。利用者の意向については、職員間で共有し、思いに沿ったケアに努めている。		
16	(12) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がより良く生活していく様 各々の課題を話し合い現状を鑑みた介護計画を作成する。	定期的な介護計画の見直しを行っており、利用者・家族の意向を踏まえ、主治医や訪問看護師から利用者の健康状態を聞き取り、毎月のカンファレンスで、担当職員の意見をもとに職員間で話し合って計画を作成している。法人内にリハビリ職や管理栄養士等が配置されており、専門的な助言を得ることができる状況にある。		
17	(13) ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きなどは毎日記録して日誌などで共有し、ケアカルテ作成時に活かしている。	利用者の日々の様子をタブレットを活用して、記録し、各ユニットの日誌も合わせて、朝と夕に申し送り等を行い、職員間で情報共有を図っている。また、変化があった場合の気づきも記録し、計画の見直しに活かしている。		
18	(14) ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに応じて連携の図れるところを活用しサービス提供を取り組んでいく。	クリニックを母体とし、複合的施設展開を行っている医療法人・社会福祉法人グループの一員であり、利用者の状況やニーズに応じて、多職種連携による医療・介護が一体的に提供できる体制ができている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
19	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でボランティアの受け入れは出来ていないが、ガラス越しに託児所の子ども達の来訪は出来、和やかな時間を過ごせている。		
20	(15)○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内がかかりつけ医であり、週1回医師の回診がある。他医療機関とも連携をとっており往診も可能な状況である。	医療機関が母体のため、かかりつけ医との連携が密であり、手厚い医療を受けることができる。従前のかかりつけ医の選択も自由であり、家族同行での受診であるが、必要な場合には法人の医療機関で対応できている。	
21	(16)○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連携室」の設置があり、医療連携が出来る体制が整っている。	入退院がスムーズにいくよう、法人内の地域連携室が中心になり、入院先の病院関係者や家族と連携を取っている。退院後は、密な医療連携のもと、ホームでの生活の質の向上に向けた取組を行っている。	
22	(17)○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に、重症化や終末期における対応について説明している。迅速に現状を把握し、適切な時期に、ご家族様、医師、看護師、介護職員が話し合い、チームで支援を行っている。	入居時には、終末期の在り方や看取りの指針について説明し、利用者・家族の意向を確認している。重度化した場合には、医師から家族へ説明を行っている。看取りに関しては、医師、看護師、介護職員等、多職種連携のもと、職員ワンチームで、本人・家族の希望に沿った支援を行っている。	
23	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	マニュアルを作成し、医師への連絡や報告や、救急要請がスムーズに行えるように、共有認識として備えている。		
24	(18)○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災マップや施設の避難経路を貼っている。定期的に避難訓練が行われていたが、コロナの影響がまだあり、避難訓練は再開されていない。	防災マップや避難経路はホームの玄関に掲示してある。防災訓練は年2回、夜間と日中を想定して行う計画を立てており、今年度より再開の予定をしている。	法人合同での訓練を行っている。今後さらに、地震発生時の初動対応訓練の強化、ホーム設備の点検強化、備蓄のさらなる充実化等に向けた取組に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
25	(19) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個々の性格や認知度を把握し、沿ったケアを行っている。話の内容により、ご本人様のみに伝わる方法で対応している。	利用者の尊厳を傷つけないよう声かけに留意している。また、排泄や入浴介助等、日常生活上のケアについて、プライバシーに配慮し、利用者それぞれの生活スタイルや個性を尊重した支援に努めている。さらに、権利擁護やプライバシー配慮について、研修を通じて理解を深めている。	
26	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いに寄り添い、希望や思いが伝えられ、自己決定が行えるように考慮し、声掛けを行っている。		
27	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、決して無理強いすることなく、ご自分のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
28	(20) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症の防止等で一緒に準備するのは困難であるが、食器もそろえ、音楽を聴きながらゆったりと食べる時間を提供している。	利用者の能力や状況に応じて、食事の準備や片付け等の役割を担ってもらっている。また、食器を選び、盛り付けに工夫を凝らし、季節を感じるメニュー等を工夫して食事が楽しみなものになるよう、配慮している。	
29	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握に気を配り、記録している。水分量の不足には、飲み物とお茶ゼリーを提供し、脱水症を防ぎ、水分摂取量を確保している。必要に応じて医師に相談・報告しST評価を受け、適切な食事形態に変更している。		
30	(21) ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。定期的に法人内の歯科医師の回診、歯科衛生士の指導を受け、現状の把握、異常の早期発見に努め、口腔内の健康、清潔の保持に努めている	毎食後の口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。また、定期的な訪問歯科診療により、早期発見・早期治療に努めている。さらに、歯科医や歯科衛生士より指導を受け、口腔ケアの実践につなげている。	

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄出来るように、必要に応じて介助したり、声掛け誘導を行っている。		
32	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の残存機能を考慮し、入浴形態を検討している。浴槽またぎが不安定な場合は、安全の為シャワー浴で対応している。		
33	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転をしないように、日中の過ごし方に注意している。眠剤を服用せず睡眠時間が確保され良眠できている。		
34 (22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な採血や日常の状態の把握と医師への報告、相談で薬調整が出来ている。	毎月のリスク会議で他施設の事例検討をしたり、利用者の名前と薬のダブルチェックを行ったり、薬ボックスを活用したりする等して、誤与薬防止の工夫に取り組んでいる。	
35 (23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みや適性を考慮し、配慮し役割や楽しみ事が出来るように支援している。	掃除や食事準備・後片付け等、それぞれの個性に応じて、できる範囲で利用者の方々に役割としてお願いしている。また、各種の趣味活動に取り組んでもらうことで、QOLを高めた生活の維持に努めている。	
36 (24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響がまだあり外出支援が、出来ていないが、一人一人の希望に沿った外出支援を再開させたい。	コロナが5類に移行しているが、未だ、影響が治まらないが、近隣散策等や利用者それぞれの希望に沿った地域への外出等の外出支援の充実化に取り組んでいる。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	トラブルリスクが高いので、現金は預かりはしていない。外出支援でお金が必要な場合は、事前にご家族様に連絡し、許可をとっている。		
38	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取次ぎや、手紙のやりとりの支援をしている。		
39 (25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除機、モップ掛けを行い、室温の管理、季節の花や装飾品を飾っている。	中庭に面して広い廊下があり、ソファー等が設置されており、くつろげる空間がある。中庭はきれいに掃除され、利用者の憩いの場になっている。また、居室の掃除も行き届き、気持ち良く過ごせる環境になっている。利用者はそこかしこで談笑する等、思い思いに過ごしている。	
40	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の相性を考えて席を決めている。自席以外にも過ごせるソファーもフロアーにあり、自由に座ってもらえるようしている。		
41	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた物や思い入れのあるもの持ち込みや居室に必要な物を依頼している。		
42	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーの廊下の手すりを完備して、居室内での安全のための動線を考え、ベッドやタンスの等の配置に工夫している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629	
法人名	特定医療法人フェニックス	
事業所名	グループホームひだまり（すみれ）	
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4	
自己評価作成日	令和6年8月10日	評価結果市町村受理日 令和7年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiruyosyoId=2170500629-00&amp;ServiceId=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiruyosyoId=2170500629-00&amp;ServiceId=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和6年9月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響がまだ残っており、行動に制限がありますが、徐々に外出支援やユニット合同の企画を行えるようになりました。初めて企画した「いちご狩り」では、笑顔が多く見られ、入居者様だけでなく、ご家族様にも大変喜ばされました、また、室内のお楽しみも強化し、誕生会や季節の行事、お菓子作り、壁や空間に手作りの作品を華やかに飾って、季節が感じられるように工夫しています。筋力維持や気分転換のために、毎日、時間を決めて懐かしい童謡を口ずさみながら、いろいろな転倒予防体操で身体を動かしています。転倒、骨折の予防として、全居室の床にジョイントマットを敷き詰めて、環境も整えています。日々のケア、栄養面の管理と、医療との連携も強く、24時間のサポート体制、週1回のドクター回診、訪問看護にて、体調管理と維持、必要に応じて薬調整を行っています。「終の棲家にひだまりを選んで良かった」と安心して落ち着いて暮らせるよう支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:8,9)	1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes We Can」の他に、ひだまり独自の「Team Care～入居者様、ご家族様の言葉はもちろん共に働く職員の声にも耳を傾けます～」という理念をあげて、周知徹底し、ケアに繋げている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、町内清掃はエリアマネージャーが参加している。		
3	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度6月に対面方式での運営推進会議が行われた。入居者の様子は施設内を案内し見学して頂くことでご意見を頂くことができた。		
4	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点に関しては、その都度市に連絡して確認している。認定調査員として来所された時に入居者様の様子を伝え、アドバイスをいただいている。		
5	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が穏やかに過ごして頂けるよう情報共有・理解し実践しているが、危険因子を含む場合はこの限りではない。		
6	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	資料で学び、職場カンファレンスで話し合い、情報共有し、防止に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、理解に努め、入居者様が当事者様となられた時は、情報共有し、支援を行っている。		
8	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明し安心して入居していただくようにご家族様の疑問や質問に答えている。		
9 (7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族会が開かれていない。面会時には、出来る限りご家族様から意見や要望等を聞き、運営に反映させている。		
10 (8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談提供をしあえる場所となっている。会議で得た情報や決定事項は各事業所に、申し送られ共有出来ている。		
11 (9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	新人研修、中途入職者研修、クレド等で自己啓発を勧めている。法人以外の研修はコロナの影響で出来ていないが、ZOOM利用等手段を変えての参加を勧めている。		
12 (10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や法人外での研修に参加している。またOJTを活用しながら日々の業務で教育を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響で交流する機会がなく、活動出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
14	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の行動・言動に注意し、理解を深めると共に、残存機能維持出来るようケアを行う。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
15 (11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との談話等で 本人様を理解し、意向の把握に努める。		
16 (12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がより良く生活していく様 各々の課題を話し合い現状を鑑みた介護計画を作成する。		
17 (13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きなどは毎日記録して日誌などで共有し、ケアカルテ作成時に活かしている。		
18 (14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに応じて連携の図れるところを活用しサービス提供を取り組んでいく。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でボランティアの受け入れは出来ていないが、ガラス越しに託児所の子ども達の来訪は出来、和やかな時間を過ごせている。		
20 (15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内がかかりつけ医であり、週1回医師の回診がある。他医療機関とも連携をとっており往診も可能な状況である。		
21 (16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連携室」の設置があり、医療連携が出来る体制が整っている。		
22 (17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に、重症化や終末期における対応について説明している。迅速に現状を把握し、適切な時期に、ご家族様、医師、看護師、介護職員が話し合い、チームで支援を行っている。		
23	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	マニュアルを作成し、医師への連絡や報告や、救急要請がスムーズに行えるように、共有認識として備えている。		
24 (18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災マップや施設の避難経路を貼っている。定期的に避難訓練が行われていたが、コロナの影響がまだあり、避難訓練は再開されていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
25	(19) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個々の性格や認知度を把握し、沿ったケアを行っている。話の内容により、ご本人様のみに伝わる方法で対応している。		
26	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いに寄り添い、希望や思いが伝えられ、自己決定が行えるように考慮し、声掛けを行っている。		
27	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、決して無理強いすることなく、ご自分のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
28	(20) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症の防止等で一緒に準備するのは困難であるが、食器もそろえ、音楽を聴きながらゆったりと食べる時間を提供している。		
29	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握に気を配り、記録している。水分量の不足には、飲み物とお茶ゼリーを提供し、脱水症を防ぎ、水分摂取量を確保している。必要に応じて医師に相談・報告しST評価を受け、適切な食事形態に変更している。		
30	(21) ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。定期的に法人内の歯科医師の回診、歯科衛生士の指導を受け、現状の把握、異常の早期発見に努め、口腔内の健康、清潔の保持に努めている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄出来るように、必要に応じて介助したり、声掛け誘導を行っている。		
32	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の残存機能を考慮し、入浴形態を検討している。浴槽またぎが不安定な場合は、安全の為シャワー浴で対応している。		
33	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転をしないように、日中の過ごし方に注意している。眠剤を服用せず睡眠時間が確保され良眠できている。		
34 (22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な採血や日常の状態の把握と医師への報告、相談で薬調整が出来ている。		
35 (23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みや適性を考慮し、配慮し役割や楽しみ事が出来るように支援している。		
36 (24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響がまだあり外出支援が、出来ていないが、一人一人の希望に沿った外出支援を再開させたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルリスクが高いので、現、は預かりはしていない。外出支援でお金が必要な場合は、事前にご家族様に連絡し、許可をとっている。		
38	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取次ぎや、手紙のやりとりの支援をしている。		
39 (25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除機、モップ掛けを行い、室温の管理、季節の花や装飾品を飾っている。		
40	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の相性を考えて席を決めている。自席以外にも過ごせるソファーもフロアーにあり、自由に座ってもらえるようしている。		
41	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた物や思い入れのあるもの持ち込みや居室に必要な物を依頼している。		
42	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーの廊下の手すりを完備して、居室内での安全のための動線を考え、ベッドやタンスの等の配置に工夫している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629	
法人名	特定医療法人フェニックス	
事業所名	グループホームひだまり（れんげ）	
所在地	岐阜県各務原市鶴沼各務原町9丁目204-4	
自己評価作成日	令和6年8月10日	評価結果市町村受理日 令和7年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先
----------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和6年9月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しずつコロナが収束してきたこともあり、外出支援や施設全体での外出行事等にも力を入れています。  
体調管理の部分では、毎朝血圧測定等のバイタルチェックと夕方には体温測定を行い、体調管理に努めています。少しでも異常があれば医師や看護師と連携し、対応しています。  
施設内の行事を行い、楽しみを持って過ごして頂けるようにしています。また、洗濯たたみ、お盆拭き、清拭たたみ等生活リハビリを実施したり、転倒予防、下肢筋力低下予防等の為、毎日体操に力を入れています。歌体操やタオル体操、嚙下体操等毎日バリエーションをつけ飽きないように様々な体操を取り入れています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日々の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:8,9)	1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes We Can」の他に、ひだまり独自の「Team Care～入居者様、ご家族様の言葉はもちろん共に働く職員の声にも耳を傾けます～」という理念をあげて、周知徹底し、ケアに繋げている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、町内清掃はエリアマネージャーが参加している。		
3	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度6月に対面方式での運営推進会議が行われた。入居者の様子は施設内を案内し見学して頂くことでご意見を頂くことができた。		
4	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点に関しては、その都度市に連絡して確認している。認定調査員として来所された時に入居者様の様子を伝え、アドバイスをいただいている。		
5	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様が穏やかに過ごして頂けるよう情報共有・理解し実践しているが、危険因子を含む場合はこの限りではない。		
6	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	資料で学び、職場カンファレンスで話し合い、情報共有し、防止に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、理解に努め、入居者様が当事者様となられた時は、情報共有し、支援を行っている。		
8	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに、説明し安心して入居していただくようにご家族様の疑問や質問に答えている。		
9 (7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族会が開かれていない。面会時には、出来る限りご家族様から意見や要望等を聞き、運営に反映させている。		
10 (8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談提供をしあえる場所となっている。会議で得た情報や決定事項は各事業所に、申し送られ共有出来ている。		
11 (9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	、新人研修、中途入職者研修、クレド等で自己啓発を勧めている。法人以外の研修はコロナの影響で出来ていないが、ZOOM利用等手段を変えての参加を勧めている。		
12 (10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や法人外での研修に参加している。またOJTを活用しながら日々の業務で教育を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響で交流する機会がなく、活動出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
14	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の行動・言動に注意し、理解を深めると共に、残存機能維持出来るようケアを行う。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
15 (11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との談話等で 本人様を理解し、意向の把握に努める。		
16 (12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様がより良く生活していく様 各々の課題を話し合い現状を鑑みた介護計画を作成する。		
17 (13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付きなどは毎日記録して日誌などで共有し、ケアカルテ作成時に活かしている。		
18 (14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のニーズに応じて連携の図れるところを活用しサービス提供を取り組んでいく。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でボランティアの受け入れは出来ていないが、ガラス越しに託児所の子ども達の来訪は出来、和やかな時間を過ごせている。		
20 (15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内がかかりつけ医であり、週1回医師の回診がある。他医療機関とも連携をとっており往診も可能な状況である。		
21 (16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内に「地域連携室」の設置があり、医療連携が出来る体制が整っている。		
22 (17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様に、重症化や終末期における対応について説明している。迅速に現状を把握し、適切な時期に、ご家族様、医師、看護師、介護職員が話し合い、チームで支援を行っている。		
23	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	マニュアルを作成し、医師への連絡や報告や、救急要請がスムーズに行えるように、共有認識として備えている。		
24 (18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災マップや施設の避難経路を貼っている。定期的に避難訓練が行われていたが、コロナの影響がまだあり、避難訓練は再開されていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
25	(19) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個々の性格や認知度を把握し、沿ったケアを行っている。話の内容により、ご本人様のみに伝わる方法で対応している。		
26	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いに寄り添い、希望や思いが伝えられ、自己決定が行えるように考慮し、声掛けを行っている。		
27	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、決して無理強いすることなく、ご自分のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
28	(20) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症の防止等で一緒に準備するのは困難であるが、食器もそろえ、音楽を聴きながらゆったりと食べる時間を提供している。		
29	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握に気を配り、記録している。水分量の不足には、飲み物とお茶ゼリーを提供し、脱水症を防ぎ、水分摂取量を確保している。必要に応じて医師に相談・報告しST評価を受け、適切な食事形態に変更している。		
30	(21) ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。定期的に法人内の歯科医師の回診、歯科衛生士の指導を受け、現状の把握、異常の早期発見に努め、口腔内の健康、清潔の保持に努めている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄出来るように、必要に応じて介助したり、声掛け誘導を行っている。		
32	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の残存機能を考慮し、入浴形態を検討している。浴槽またぎが不安定な場合は、安全の為シャワー浴で対応している。		
33	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転をしないように、日中の過ごし方に注意している。眠剤を服用せず睡眠時間が確保され良眠できている。		
34 (22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な採血や日常の状態の把握と医師への報告、相談で薬調整が出来ている。		
35 (23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の好みや適性を考慮し、配慮し役割や楽しみ事が出来るように支援している。		
36 (24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響がまだあり外出支援が、出来ていないが、一人一人の希望に沿った外出支援を再開させたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルリスクが高いので、現、は預かりはしていない。外出支援でお金が必要な場合は、事前にご家族様に連絡し、許可をとっている。		
38	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取次ぎや、手紙のやりとりの支援をしている。		
39 (25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除機、モップ掛けを行い、室温の管理、季節の花や装飾品を飾っている。		
40	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の相性を考えて席を決めている。自席以外にも過ごせるソファーもフロアーにあり、自由に座ってもらえるようしている。		
41	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた物や思い入れのあるもの持ち込みや居室に必要な物を依頼している。		
42	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーの廊下の手すりを完備して、居室内での安全のための動線を考え、ベッドやタンスの等の配置に工夫している。		